

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【退職教員を対象とした日本語指導者養成】

受託団体名 社団法人国際日本語普及協会

1 事業の趣旨・目的

平成19年末現在の外国人登録者数は215万人を超え、過去最多を更新した。日本の総人口に占める割合は約1.7%で、10年前の約1.5倍になっている。外国人が生活者として地域社会において、自立した生活を営み、また、同じ地域に生活する住民として暮らしていくための権利を行使し、義務を果たすためにも日本語学習は欠かせない。なかでも、次世代を担う子どもたちの教育の問題は軽視できない。日本の学校に入る外国人児童生徒は年々増加し、学校教員や地域のボランティアによる指導が行われているが、その困難さや人材の不足が問題となっている。

外国人住民の日本語支援は地域の国際交流協会やボランティア団体の主催する日本語教室などの日本語支援機関で行われ、各地域の国際交流協会や県、市町村の多文化共生推進関連課等による日本語養成講座も開かれている。しかし、年々増加する外国人とその多様化する学習ニーズに適切に対応するためにはさらなる研修や情報交換が必要となっている。

今事業では生活者としての外国人に対する日本語支援事業の一つとして、退職教員を対象とした日本語指導者養成講座を実施した。退職教員は長く教授活動に携わり、学校における教育のみならず、学習と人間形成に関しても豊かな知識と経験を有している。その知識と経験を活かし、地域在住の外国人に、また、特に学校における外国人児童生徒の支援に力を発揮してもらいたいと考えた。一時的な滞在ではなく、地域の生活者として定住していく人たちが増え続けている。1990年の入管法改正に伴い就労可能な在留資格を得て入国した日系2世、3世の滞在も長期化するケースが多く、その間、数年で帰国する予定であった子どもたちも成長し、日本の学校で教育を受けることになった。地域の学校でも、外国にルーツを持つ子どもたちに対する教育の問題点が浮き彫りになってきている。子どもたちは自ら好んで来日し、在住するわけではないが、いやおうなく日本で生活し、教育を受けていくことになる。日系人の集住地域ではすでに問題が顕在化し、様々な対策が行われているが、通常は1つの学校に外国籍の子どもたちが1名から2名のみ在籍することが多いのが現状である。子どもたちは一般的に生活言語は獲得することができると言われるが、学習言語の獲得には特別な指導が必須である。退職教員という

特長を生かして、外国人としての子どもを取り巻く問題、日本語を外国語として捉える考え方などの研修を行い、問題を共有することにより地域の年少者の指導体制の充実を図ることを目的とした。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成 20 年 9 月 18 日	(社)国際 日本語普 及協会	別紙①	秋田県能代市連絡会議	秋田県能代市の研修の趣旨確認、研修業務の手続き等確認。研修の実施前に地域の該当地域の現状を知り、円滑に研修が行えるようにする。
平 成 20 年 9 月 19 日	(社)国際 日本語普 及協会	別紙②	兵庫県伊丹市連絡会議	兵庫県伊丹市の研修の趣旨確認、研修業務の手続き等確認。研修の実施前に地域の該当地域の現状を知り、円滑に研修が行えるようにする。
平 成 20 年 10 月 30 日	(社)国際 日本語普 及協会	別紙③	兵庫県伊丹市連絡会議	千葉県四街道市の研修の趣旨確認、研修業務の手続き等確認。研修の実施前に地域の該当地域の現状を知り、円滑に研修が行えるようにする。
平 成 21 年 2 月 12 日	(社)国際 日本語普 及協会	別紙④	研修終了報告会議	3 箇所の研修を終えて、講座を振り返り、今後の課題を探った。

3 養成講座の内容について

I

- (1) 養成講座名 退職教員を対象とした日本語指導者養成 兵庫県伊丹市
- (2) 養成講座の目標 日本語指導・適応指導を必要とする外国人児童生徒の保護者の支援を行う
- (3) 受講者の総数 8人
- (4) 開催時間数(回数) 39 時間 (13 回)
- (5) 参加対象者の要件 退職した教員、日本語指導のボランティア活動に意欲を有する者
- (6) 受講者の募集方法
退職教員のネットワークを通じて声をかける
- (7) 研修会場 伊丹市総合教育センター
- (8) 使用した教材・リソース 講師作成教材、年少者用教科書
- (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月12日 9:00～ 12:00	地域の外国人と日本 支援	(社)国際日本語普及協 会 常務理事対象別教 育養成部長 吉田依子	8名
9月16日 13:00～ 16:00	外国にツールをもつ 子どもたちへの日本 語支援を考える	同協会 地域日本語教 育担当理事 関口明子	8名
9月19日 9:00～ 12:00	国語教育と日本語教 育	同協会 教師会員 斉藤幸子	5名
9月30日 13:00～ 16:00	日本語を振り返る 音声	同協会 教師会員 対象 別教育養成副部長 内海美也子	8名
10月3日 9:00～ 12:00	日本語を振り返る 表記	同協会 教師会員 対象 別教育養成副部長 内海美也子	8名
10月7日 13:00～ 16:00	日本語の教え方① 文型とは	同協会 教師会員 水野晴美	8名
10月10日 9:00～ 12:00	日本語の教え方② 助詞	同協会 教師会員 萬納恭子	6名

10月21日 13:00～ 16:00	日本語の捉え方③ 形容詞の捉え方	同協会 教師会員 見滝智子	6名
10月24日 9:00～ 12:00	日本語の捉え方 動詞の捉え方	同協会 教師会員 高河原祐子	7名
10月28日 13:00～ 16:00	外国語体験	同協会 総務広報部長 楫光可	7名
10月31日 9:00～ 12:00	読み聞かせ実践	同協会 教師会員 向野理恵子	8名
11月4日 13:00～ 16:00	外国にルーツをもつ 子どもたちへの読み 聞かせの実践	同協会 地域日本語教 育担当理事 関口明子	8名
11月7日 9:00～ 12:00	受講者発表・質疑応 答	同協会 地域日本語教 育担当理事 関口明子 同協会 常務理事・対象 別教育養成部長 吉田依子	8名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

取り上げた内容の構成について非常に良かった、今後地域支援活動にぜひ参加していきたいという声も多かった。詳細は別添報告書参照。

② 実施主体からの研修内容結果評価

毎回、経験豊富な講師を派遣していただき、質の良い講座を受講できたことは、大変有意義であった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

・今回の受講生が中心となり、新年度（8月以降）から、月2回程度の外国人の師弟（小中学生対象）のための日本語指導教室を開設する予定である。4～5月に各学校を通して希望をとる予定である。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

② 研修後の人材活用

伊丹市ユネスコ協会で日本語支援をしている方が 3 人受講生として出席していたため、退職教員が地域の外国人支援の現状をより詳しく知ることができた。ユネスコ協会で今後、直接、支援をされる方は多くはないかもしれないが、現状を知り、教育委員会へも働きかけていこうという姿勢が生まれた。今後も退職教員のネットワークを生かして地域支援の場に参加していただけたと思う。

(12) 今後の課題

日本語を母語としない子どもたちの現状を理解していただいたが、たいていが 1 校に 1 人程度の子どもたちがいるということで、集住地域と比べ、なかなか大きな動きになりにくいところがある。ただ、外部のボランティアが学校に入ってくることへの問題点をよく知っている退職教員がボランティアの立場や必要性を認識することは大変意味があると思う。できるなら、退職教員とともに現職教員にも参加してもらえる研修を実施したい。

II

(1) 養成講座名 能代日本語指導者養成セミナー 秋田県能代市

(2) 養成講座の目標 元教員という教育・指導に慣れた人材を有効活用し、日本語指導に力を借りる

(3) 受講者の総数 13人

(4) 開催時間数(回数) 36 時間 (12 回)

(5) 参加対象者の要件 能代市等に居住の小・中・高校を退職した日本語指導ボランティア活動に意欲がある人

(6) 受講者の募集方法

退職教員のネットワークを通じ声をかける。また、地方紙に広告文を掲載する。

(7) 研修会場 能代市中央公民館

(8) 使用した教材・リソース 講師作成教材、年少者用教科書

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月8日 13:00～ 16:00	地域の外国人と日本語支援	(社)国際日本語普及協会 常務理事対象別教育養成部長 吉田依子 秋田県学術国際部 学術国際政策課 町本修一郎	10名
9月22日 13:00～ 16:00	外国にツールをもつ子どもたちへの日本語支援を考える	同協会 地域日本語教育担当理事 関口明子	10名

9月29日 12:30～ 15:30	日本語教育と国語教育	同協会 教師会員 及川千代香	13名
10月6日 12:30～ 15:30	日本語を振り返る 音声	同協会 教師会員 対象 別教育養成副部長 内海美也子	11名
10月27日 12:30～ 15:30	日本語を振り返る 表記	同協会 教師会員 対象 別教育養成副部長 内海美也子	12名
11月10日 12:30～ 15:30	日本語の教え方① 形容詞	同協会 教師会員 加藤優子	10名
11月17日 12:30～ 15:30	日本語の捉え方② 動詞の捉え方	同協会 教師会員 水野晴美	11名
12月1日 12:30～ 15:30	日本語の捉え方③ 助詞	同協会 教師会員 萬納恭子	11名
12月8日 12:30～ 15:30	外国語体験	同協会 総務広報部長 楫光可	11名
12月15日 12:30～ 15:30	教科指導と日本語指導(1)	同協会 教師会員 金早苗	10名
12月22日 12:30～ 15:30	教科指導と日本語指導(2)	同協会 教師会員 三田美佐子	13名
1月5日 15:00～ 18:00	質疑応答・まとめ	のしろ日本語学習会代表 北川裕子 同協会 地域日本語教育担当理事 関口明子 同協会 常務理事・対象 別教育養成部長 吉田依子	10名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

取り上げた内容の構成について良かった。これまで歩んできた道が「正しい日本語、国語としての日本語」だったので、非常に刺激的な講座だった。外国語としての日本語の教え方を知ることができ興味深かったという感想があったが、今後地域支援活動への参加に関しては消極的なコメントもあった。詳細は別添報告書参照。

③ 実施主体からの研修内容結果評価

短時間ではあったが、日本語指導の初歩について、一通り理解できた。特に日本語指導に意欲ある人のつながりができたことは大変良い成果となった。

④ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

すでに受講生のうち4名が日本語教室で活躍されている。その他にも意欲的な方もおり、学校教育の場などで活動の機会があればお願いしていきたい。

(11) 事業の成果

(ア) 他事業との連携

(イ) 研修後の人材活用

すでに以前から能代を中心に活動している日本語支援グループとの連携がとれることが望ましい。まだ、顕在化している日本語を母語としない子どもたちも多くないので、時間をかけて体制を整えていくためにぜひ今回の参加者に力を借りることができるとよいと考える。

(12) 今後の課題

風土的にも何事にも慎重に検討し、活動に参加していく方々のようで今回の研修でいろいろなことをお考えいただいたが、実際に地域の支援現場に出て行ったださる方はあまり多くないように思われる。すでに能代で活動をしているグループとの連携がとれるとよいと思うが、この点がなかなか難しいように思われた。教育委員会が中心となり、相互の橋渡しを行い、さらに交流の機会を設けて理解を深めていくことが必要ではないかと考える。

Ⅲ

(1) 養成講座名 退職教員日本語指導者養成講座 千葉県四街道市

(2) 養成講座の目標 日本語を母語としない児童生徒に日本語及び学校生活を専門に指導する人材を養成する

(3) 受講者の総数 14人

(4) 開催時間数(回数) 20 時間 (10 回)

(5) 参加対象者の要件 地域の元小中学校教員

(6) 受講者の募集方法 市政だよりとにほんご教室の説明会で公募。ボランティアセンターの広報誌に募集記事掲載。

(7) 研修会場 四街道文化センター

(8) 使用した教材・リソース 講師作成教材、年少者用教科書

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
11月5日 10:00～ 12:00	外国にルーツをもつ 子どもへの日本語支 援地域・外国にルー ツを持つ子どもたち の現状と課題	同協会 地域日本語教 育担当理事 関口明子	14名
11月12日 10:00～ 12:00	外国語体験	同協会 教師会員 大久保美子	9名
11月19日 10:00～ 12:00	小学生への日本語 指導①	同協会 教師会員 塩田多賀子	15名
11月25日 10:00～ 12:00	小学生への日本語 指導②	同協会 教師会員 塩田多賀子	12名
12月3日 10:00～ 12:00	小学生への日本語 指導③	同協会 教師会員 塩田多賀子	14名
12月10日 10:00～ 12:00	中学生への日本語 指導①	同協会 教師会員 金早苗	11名
12月17日 10:00～ 12:00	中学生への日本語 指導②	同協会 教師会員 金早苗	11名
12月24日 10:00～ 12:00	中学生への日本語 指導③～教科学習 についていける日本 語力をつけるには～	同協会 教師会員 赤木朋子	12名
1月7日 12:30～ 15:30	ボランティア教室から の声	四街道市語学指導員 李書霞氏 同協会 地域日本語教 育担当理事 関口明子 同協会 常務理事、対象	14名

		別教育養成部長 吉田 依子	
1月14日 10:00～ 12:00	受講者発表とまとめ	同協会 地域日本語教 育担当理事 関口明子	14名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

取り上げた内容の構成について良かった、今後地域支援活動に参加していきたいと書いた方が多かった。指導の現場の生の声を聞くことができてよかったという声もあった。詳細は別添報告書参照。

② 実施主体からの研修内容結果評価

大人に対する日本語指導歴が7, 8年のスタッフ(日本語ボランティア)にとっても得るところが大きかった。外国語体験(タイ語)の授業は日本語の全くわからない子どもにもどう対応したらよいか体験できた。生徒に文章を作らせ何度も読ませて身に付けさせる方法は効果があるのかどうか心配していたが、経験豊富な講師の話を聞いて安心した。講師の「子どもたちは本当は勉強したくない」という言葉を聞いてほっとした。子どもの言語習得に関する科学的な分析に納得した。

10名の受講生のうち4名は理由があって活動を辞退したが、6名は学校との時間の調整がつけば4月から活動を開始する。この数字から見て適切な授業内容が受講生の積極性を大いに引き出したと言える。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

生活面では自治会や学校、PTA、民生委員などで構成される地区社協に接触して外国人住民の現況を聴取して問題点があれば適宜対応していく。教育面では学校の学習ボランティアの一部として日本語指導を位置づけ、外国籍児童生徒の日本語及び日本文化理解の支援活動をしていく。現在ある小学校では保護者が外国人為児童の状況と必要な支援等の調査をしており、結果が出次第友の会も協力することになっている。行政面ではすでに全戸配布されている防災ブザーマップの各国語版の翻訳依頼が来ている。翻訳者を探しているが、市の自治防災課担当者とは外国人住民や翻訳者、友の会も同席して外国人住民が使いやすいように原文を再編集する旨、話がついている。これらの活動の主な目的は市が近年中に設立を予定している国際交流協会の一事業としての外国人支援活動とは何をするのか、どの分野で自分たちが協力できるのかを市の各部課、地域住民がともに考えていくことにある。

(11) 事業の成果

(ア) 他事業との連携 国際交流関連団体と連携の道筋をつけたいと考えている。

(イ) 研修後の人材活用

四街道市教育委員会の語学指導員として登録してもらう。学校での取り出し授業等に参加してもらう。

(12) 今後の課題

主催団体の目的意識が初めからしっかりしていたので、研修を絞り込みやすかった。しかし、学校に外部の人が入ってくるということの是非を身をもって理解されている方々なので、教育委員会等がよほどしっかりした制度を作らない限り、活動の現場に入るつもりはないという人もいた。学校側の拒否的反応もわかっておられるだけに難しいものがあることがわかる。制度的な整備にも力を借りて整えていくことができるとよいと思う。

また活動の現場を見てもらう機会を作り、研修で学んだことがどのような意味を持つのか実際に体験していただければありがたい。